

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013年 11月

「パート II -贖罪の犠牲における大祭司としての働き (III)」

「最後のテストに直面する」 「第一天使のメッセージ (IV)」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「パートII-  
贖罪の犠牲における大祭司としての働き (III)」 4

### 朝のマナ

「最後のテストに直面する」 8  
信仰によってわたしは生きる

### 現代の真理

「第一天使のメッセージ (IV)」 39  
三重のメッセージ

### 力を得るための食事

「大根ステーキ」 50

### お話コーナー

「エリヤの聞く耳」 52

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1  
電話：0494-22-0465  
FAX：0494-26-5059

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2  
電話：088-831-9535

##### 【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21  
電話：0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>  
メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2013年10月31日  
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション  
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;  
HighRes on pages 48

## 天使たちがうかがい見たいと願っている神秘

天の聖所の聖所と至聖所は、地上の聖所の二つの部屋によって表わされている。使徒ヨハネは、幻のなかで、天にある神の宮を見ることを許されたとき、「七つのともし火が、御座の前で燃えてい」るのを見た（黙示録 4:5）。彼は、一人の天使が、「金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった」のを見た（黙示録 8:3）。ここで、預言者は、天の聖所の第一の部屋を見ることを許された。そして、そこに、地上の聖所の金の燭台と香壇によって表わされていたところの、「七つのともし火」と「金の祭壇」を見た。再び、「天にある神の聖所が開けて」（黙示録 11:19）、彼は、奥の幕の中の、至聖所を見た。彼はここで、「契約の箱」を見た。それは、神の律法を入れるためにモーセが作った聖なる箱によって表わされていたものであった。

こうして、この問題を研究していた人々は、天に聖所があるという疑う余地のない証拠をつかんだ。モーセは、示された型に従って、地上の聖所を造った。パウロはその型となった天の聖所が、真の聖所であると教えている。そしてヨハネは、それを天に見たと証言している。

神の住居である天の宮において、そのみ座は、義と公正に基づいている。至聖所には、正義の規準である神の律法があって、全人類がそれによって審査されるのである。律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖いの計画における、義といつくしみの結合が表わされている。この結合は、無限の知恵のおかたのみが考案し、無限の力のおかたのみが成し遂げることができた。この結合は、全天を、驚異と賛美で満たすものである。うやうやしく贖罪所を見おろしている、地上の聖所のケルビムは、贖罪の業に対する天の軍勢の深い関心を表わしている。これは、天使たちもうかがい見たいと願っている、あわれみの神秘である。すなわち、悔い改めた罪人を義とし、墮落した人類との交わりを回復するとともに、神自らが義となられること、また、キリストが、ご自分の身を低めて、無数の群衆を滅びの淵から引き上げ、彼ご自身の義の汚れない衣を着せて、彼らを墮落しなかった天使たちとの交わりに入れ、神の前に永遠に住まわせられること、このことである。（各時代の犬争闘下巻 127, 128）

贖罪

パート II—贖罪の犠牲における大祭司としての働き (III)

VIII. キリストは法廷におけるわたしたちの友であられる

わたしたちの大祭司は、ご自分の贖われた民のために、恵みの御座の前で嘆願しておられる。……サタンは、わたしたちの右に立ってわたしたちを告発している。そしてわたしたちの弁護人は神の右側に立って、わたしたちのために嘆願しておられる。このお方は、ご自分に任された裁判で一度も負けたことがない。わたしたちは自分の弁護人を信頼することができる。なぜなら、このお方はご自身の功績をわたしたちのために嘆願してくださるからである。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1893年8月15日)

キリストは大祭司となられることによってご自分に栄光を帰されたのではなかった。神がこのお方を祭司職を任命されたのである。このお方はすべての人類家族にとって模範となられるのであった。このお方は自ら人類の代表となるためばかりでなく、彼らの弁護者となられるのにふさわしいお方となり、だれでも望む人は、わたしには法廷に友がいるということができるようになされた。このお方はわたしたちの弱さを思いやることができになる大祭司であられる。(原稿 101, 1897年)

イエスは、神のみ前で務めをなし、小羊がほふられたときに流されたご自分の血を捧げておられる。イエスは罪人のすべての罪とすべての欠点のために捧げられた供え物を提示しておられる。

わたしたちの仲保者キリストと聖霊は、たえず人間のためにとりなしておられる。しかし、聖霊は、世の初めから流されたご自分の血を提示なさるキリストのように、わたしたちのために嘆願なさるのではない。聖霊はわたしたちの心に働きかけ、祈りと悔悟、讚美と感謝を引き出されるのである。(原稿 50, 1900年 (パウル・コムン列 [E. G. 初作コメト] 6巻, ローマ 8:26, 34 コムン列)。

キリストが天へ上られたとき、このお方はわたしたちの弁護人として上られた。

わたしたちにはいつも法廷に友がいる。そして高いところから、キリストはご自分の代表者たちをすべての国民、部族、国語、民族へ遣わされる。聖霊はキリストを受け入れるすべての人に聖なる油の注ぎをお与えになる。(クリスチャン教育者 1897年 8月 22日)

このお方は全世界のために贖い代を支払われた。すべての人はこのお方を通して救われることができる。このお方はご自分を信じる人々を、ご自分の王国の忠実な臣民として神に紹介される。このお方は彼らの贖い主であられると同時にまた彼らの仲保者となられる。(原稿 41, 1896年)

キリストがカルバリーの十字架上で死なれたとき、新しく生きた道がユダヤ人と異邦人の両方のために開かれた。救い主はその時から、諸天の天で、祭司また弁護人としての務めをされるのであった。その時から、罪のために捧げられる獣の血は価値がなくなった。なぜなら、神の小羊が世の罪のために死なれたからである。(Und 原稿 127)

サタンがその誘惑を通して人類をおとしめた墮落から人類家族を引き上げるみ腕は、他の諸世界の住民を罪から守ってこられたみ腕である。無限の空間に広がるすべての世界は、御父と御子の保護と支えを必要としている。そしてこの保護はたえず墮落した人類のために働いている。キリストは人類のためにとりなしの働きをなされ、また目に見えない他の諸世界の秩序もこのお方にとりなしの働きによって維持されている。これらの主題は、わたしたちの思想を働かせ、またわたしたちの神への感謝と崇敬を呼びさますのに十分な規模と重要性をそなえてはいないだろうか。(レビュー・アンド・ワールド 1881年 1月 11日; 青年への使命 251)

## IX. 仲保者となるために人となられた

イエスは人と神の間の仲保の働きができるために人となられた。このお方はご自分の神性に人性をまとわれた。このお方は人類と交わり、こうしてご自分の長い人性のみ腕で人類を抱き、またご自分の神性のみ腕で神の御座をつかむことがおできになった。そしてこれは、人がエデンでサタンの魅惑的な誘惑を通して失ったもとの思いをイエスが人に回復することがおできになるためであった。また人が神のご要求に従うことは自分の現在と永遠の益のためであることを悟ることができるためであった。不従順は、神がエデンで人にお与えになった性質に

一致しない。(手紙 121, 1897年)

このお方の人性の完璧さ、このお方の神性の完全さは、わたしたちのためにわたしたちが神との和解に導き入れられるための強固な土台を形成する。キリストがわたしたちのために死なれたのは、わたしたちがまだ罪人であったときであった。わたしたちはこのお方の血を通して、贖いを得、罪の許しを得る。このお方の釘の刺し通されたみ手は、天と地に向かって伸ばされている。一方の手でこのお方は地上の罪人をつかみ、もう一方の手で無限のお方の御座をつかみ、こうしてこのお方はわたしたちのために和解をなしてください。キリストは今日、御父の前でわたしたちの弁護人として立っておられる。このお方は神と人の間の唯一の仲保者であられる。ご自分の十字架の跡を帯びて、このお方はわたしたちの魂の訴訟のために嘆願してください。(手紙 35, 1894年)

## X. 天の弁護人は永遠に人間の性質を保持される

キリストは聖化された聖なる人性を帯びて天へ上られた。このお方はこの人性を天の宮廷へと携えていかれ、神の都にいるすべての人類を贖われたお方として、永遠にわたって人性を負われるのである。(ビュー・アッド・ハルト 1905年3月9日)

ご自分の定めによって、このお方〔御父〕は、ご自分の祭壇のところにわたしたちの性質で覆われた弁護人をおかれた。わたしたちの仲保者として、このお方の務めは、神にわたしたちを神のむすこ娘として紹介なさることである。キリストはご自分を受け入れた人々のためにとりなされる。彼らにこのお方は、ご自身の功績という徳によって、王家の一員、天の王の子となる力をお与えになる。(教会への証 6 卷 363, 364)

イエスを信仰によって瞑想し、このお方が人類と永遠の御座の間に立っておられるのを見ることはわたしたちの特権である。このお方はわたしたちの仲保者であられ、わたしたちの祈りと捧げ物を神への霊的な犠牲として差し出しておられる。イエスは偉大にして罪のないあがないの供え物であられ、このお方の功績を通して、神と人は共に対話することができる。キリストはご自分の人性を永遠に携えていかれる。このお方は神のみ前にわたしたち人類の代表として立たれる。(エース・インストラクター 1897年10月28日)

イエスだけが、神に安全保障をお与えになることができた。なぜなら、この

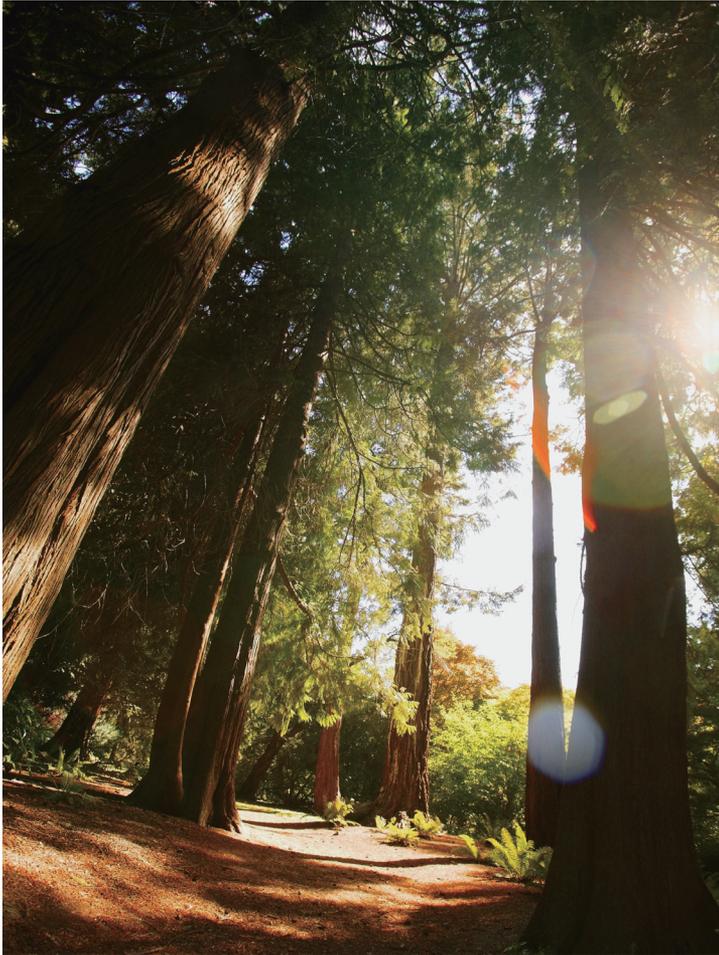
お方は神と等しいお方だからである。このお方だけが神と人の間の仲保者となることができになるのであった。なぜなら、このお方は神性と人性を持っておられたからである。イエスはこうしてあらかじめ述べられた条件を成就するために両方の側に安全保障を与えることがおできになった。神の御子としてこのお方はわたしたちのために神に安全保障を与え、永遠の御言として、また御父に等しいお方として、このお方はわたしたちに、ご自分の誓いの言葉を信じるわたしたちに対する御父の愛を保証しておられる。神がわたしたちにご自分の不朽の平和の会議について保証なさるとき、このお方はご自分のひとり子を賜わり、人類家族の一人とならせ、その人性は神がご自分のみ言葉を成し遂げられることの誓いとして、永遠に保持されるのである。(ビュー・アソド・ハルト 1894年4月3日)

神への人の和解は、神と等しい仲保者、すなわち尊厳のある特質を有し、ご自分を人類のために無限の神と交渉するのにふさわしいものと宣言し、また墮落した世に対して神を表すお方を通してのみ成し遂げられるのであった。

人の身代わりであり、保証人であるお方は、人の性質、ご自分が代表する人類家族とのつながりを持っていなければならない。そして神の大使として、このお方は世に対して神を表し、神と人の間の仲保者となるために、神性にあざかり、無限のお方とのつながりを持っていなければならない。(ビュー・アソド・ハルト 1891年12月22日)

# 信仰によってわたしは生きる

*The Faith I Live By*



11月 「最後のテストに直面する」

## このような時のために

「あなたがもし、このような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう。しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」(エステル 4:14)

罪の忌まわしい性質を認めて、上からの力によって誘惑に抵抗するものはだれでも、必ずサタンとその部下たちの激怒を引き起こす。(各時代の犬争闘下巻 245)

各時代において、人々に真の教会を迫害させた同じ精神が、将来も、神に忠誠をつくす者に対して同様の行動を取らせるに至るのである。……

最後に神の残りの民に対して出される布告は、ユダヤ人に対してアハシュエロス(クセルクセス)が発したものと非常によく似ている。今日、真の教会の敵は、安息日の戒めを守る小さな群れを、門に座しているモルデカイのように思っている……

サタンは一般の習慣や伝統を受け入れない、少数の者に対して怒りを発する。……迫害を加える支配者たち、牧師や教会員たちが彼らを滅ぼそうと陰謀を企てる。この人々は声と筆、誇張と脅迫と嘲笑などによって、彼らの信仰をくつがえそうとする。……聖書の安息日の擁護者に対して、「聖書はこう言っている」ということができないので、彼らは圧政的法令に訴えて、自分たちに欠けているものを補う。立法者たちは民衆の人気と支持を得るために、日曜休業令に屈服する。しかし神を恐れる者は、十戒の戒めに反する法令に従うことはできない。真理と誤りの間の最後の犬争闘は、この論点において戦われるのである。(国と指導者 下巻 208, 209)

エステルに対するモルデカイの言葉は、今日の大人にも青年にも当てはまる。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」。(教会への証 5巻 321)

## 敵の残酷な力

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。」(ヤコブ4:7, 8)

カペナウムの悪魔に取りつかれた者のように、邪悪な霊の力のもとにいる者が、今日ほんとうに大勢いる。意図的に神の律法から離れる者はすべて、サタンの支配下に自分の身を置いているのである。多くの人は、好きな時にいつでもやめることができると思って悪に手をつける。しかし彼は、次々と誘い込まれ、ついに自分が自分の意志よりもさらに強力な意志によって支配されていることに気づくに至るのである。彼はその神秘的な力から逃れることはできない。ひそかな罪や支配的な情欲は、カペナウムの悪魔に取りつかれた者のように、彼を自分ではどうしようもない捕虜にすることができる。(サインズ・オブ・タイムズ 1908年1月29日)

サタンはこの世の神であり、その影響力は感覚を誤らせ、人の思いを悪へと支配し、その犠牲者を暴力や罪へと追いやるのである。彼は不和の種をまき、知性を暗くする。キリストの働きは、人の子らを支配している彼の力を打ち砕くことである。しかし、なんと多くの者たちが、人生のあらゆる分野において、家庭において、商取引において、教会において、イエスをその戸口で追い返し、憎むべき怪物を中へ入れていることであろうか。(同上 1877年5月24日)

サタンの道は、最も広く、最も人を惑わせるものである。それは困難で、当惑させ、失望に満ちている道であるのに、もっとも魅力的に見えるように作られている。(ビュー・アンド・ワールド 1880年4月15日)

自分が聖霊を悲しませ、神から離れるようなことがないようにと自ら見張っている者は、自分の危険を感じている者である。なぜなら、彼は神が自分の一連の行動をお喜びにならないのがわかっているからである。神に近づき、それによってこのお方の御言から輝いている純潔な光が、魂のうちに罪がつくった傷を癒すようにすることは、どれほどすぐれ、また安全なことであろうか。神に近づけば近づくほど、わたしたちはより安全である。なぜならサタンは、神のご臨在を憎み、恐れているからである。(SDA バイブル・コメント [E.G. コット] 7巻 937)

サタンの狡猾さは減ずることはない。しかし、すべての光と神聖な知識の源であられるお方との生けるつながりを通して与えられる知恵は、彼の策術やたくらみに比例する。(ビュー・アンド・ワールド 1910年8月4日)

## 世俗的な策略

「そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。」(コリント第二 2:11)

ソロモンは、「自分の心を頼む者は愚かである」(箴言 28:26) と言っているが、自ら信心深さを公言する者の中に、そのような者が幾百人もいる。使徒は「わたしたちは彼の〔サタンの〕策略を知らないわけではない」と言う。ああ、なんとこの策術、巧妙さ、狡猾さを働かせ、キリストに従うと公言する者を世との結合へと導いていることであろう。彼らは何かいもののが得られるだろうとの惑わしの下に、世の娯楽に幸福を求める。こうして、警戒しない者たちは、その道に悪いものは何もないと得意になって、まっすぐに網の中へと歩いていくのである……。

わたしは、この時代に住む若者の大多数が、永遠の命に到達できないという思いにどうして耐えることができようか。ああ、楽器の音が止み、彼らがこれ以上貴重な時間を自分自身のやりたいことに無駄に費やすことがなければよいのだが。彼らが、衣服や無益な会話に費やす時間を減らし、健全な経験を求めて、熱心で、心を裂く祈りを神にささげてくれればよいのだが。神の御言の光のうちに自己を厳密に吟味する必要がある大いにある。各自「わたしは健全であろうか、それとも心が腐敗しているであろうか。わたしはキリストによって新たにされたであろうか。それとも、新しい衣服で外を装いながら、まだ心は肉のものではないだろうか」と問いなさい。大いなる裁きのために自らを制し、神の光のうちに、あなたが心に抱いているひそかな罪、まだ捨てていない偶像がありはしないか吟味しなさい。祈りなさい。しかり、サタンの策略に惑わされることがないように、かつてなかったほど祈りなさい。……確かに、永遠の命というあなたの希望の土台を築くのに、確実すぎるということはない。わたしたちの周りの人々は虚栄心が強く、娯楽を追い求め、愚かかもしれないが、わたしたちの会話は、わたしたちが救い主の来られるのを待っている天についてである。魂は、許しと平安、義と真の神聖さを求めて、神に向かって手を伸ばしている。(教会への証 2巻 143～145)

あなたの心から罪を追い出しなさい。なぜなら罪が神の御子の死をもたらしたからである。(ビュー・アズ・ワルド 1884年7月22日)

親愛なる青年がたよ、イエスが死なれたのは、あなたがたを罪のうちに救うためではなく、罪から救って下さるためである。(ユース・インストラクター 1897年7月15日)

## 羊飼いの声を試す

「わたしはよい羊飼いであって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。」(ヨハネ 10:14)

わたしたちは一人ひとり激しく誘惑され、わたしたちの信仰は最大限に試されることになる。(レビュー・アソド・ハラド 1885年11月17日)

わたしたちはキリストのうちに錨をおろし、信仰に根ざし、信仰を基とする必要がある。サタンは代理人を通して働く。彼は生ける水を飲んでこなかった者、その魂が何か新しい風変わりなことを渴望し、目の前に現れればどんな泉からでもすぐに飲もうとする者を選ぶ。「見よ、ここにキリストがおられる」「見よ、あそこに」と言う声が聞こえてくる。しかし、わたしたちはそれらを信じてはならない。わたしたちには、真の羊飼いの声について間違える余地がない証拠があり、そしてこのお方はご自分に従ってくるようにとわたしたちを招いておられる。「わたしは父のおきてを守った」とこのお方は言われる。主はご自分の羊を神の律法への謙遜な従順という道へと導かれる。……

「見知らぬ者の声」とは、神の神聖で、正しく、善なる律法を尊びも、従いもしない者の声である。多くの者は、この偉大なる義の標準を尊重せずに、大いに聖潔を見せかけ、病人をいやすことにおいて自分たちが不思議を行うことを自慢する。しかし、これらのいやしはだれの力を通してなされたのであろうか。いずれかの側の人の目は、律法に対する自分たちの違反に対して開かれるであろうか。そしてへりくだった従順な子として、いつでも神のすべてのご要求に従う立場をとるであろうか。ヨハネは神の子らと公言する者を、『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」と証言している(ヨハネ第一 2:4)。……もしいやしを行う人々が、これらの現れのために、神の律法を軽視する言い訳をする傾向にあり、引き続き不従順であり続けるなら、たとえ彼らにどれほどの、またあらゆる力があっても、彼らが神の偉大な力を持っていることにはならない。逆にそれは、大いなる欺きの奇跡をなす力である。……わたしたちは、神の律法の違反を許す、うわべだけの聖潔に注意しなくてはならない。律法を足の下に踏みつけ、自分自身の考案による基準で自己を裁く者が、聖化されることはありえない。(SDA パイブル・コメンタリ [E.G. 初付コメント] 5 卷 1099)

## 病人のための祈り

「だから、互いに罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)

キリストは地上で伝道されていた時と同じように今もなおあわれみ深い医者である。キリストの中にすべての病をいやす乳香……がある。(ミストリー・オブ・ヒーリング 203)

人はなぜ、人を創造されたお方、また、一触で、一言で、一目で、ありとあらゆる病気をいやすことができるお方に、寄り頼むことに気乗りしないのだろうか。わたしたちの贖いのためにこれほど大きな犠牲を払ってくださったお方以上に、わたしたちの信頼に値するものがあるであろうか。わたしたちの主は、使徒ヤコブを通じて、病気の場合におけるわたしたちの義務に関して、はっきりとした指示を与えておられる。人の助けが失望に終わるとき、神がご自身の民の助け手となってくださる。「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主のみ名によってオリーブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして主はその人を立ち上がらせて下さる。……」(ヤコブ 5:14, 15)。(健康への勧告 457)

しかしこうした祈りは最も厳粛なものであって、慎重な考慮なしに行ってはならない。……

健康回復のための祈りを求める人には、自然の法則であれ、霊的な律法であれ、神の律法を犯すことは罪であり、このお方の祝福を受けるためには罪を告白し、罪を捨てなければならないことをはっきりと教えなければならない。……

神のみこころに従って求めるならば、神はおききあげになるということをおわたしたちは知っている。それなのに神にゆだねる気持ちがなく、あくまで自分たちの嘆願を押し付けるのは正しくない。わたしたちの祈りは命令の形でなく、懇願の形でなければならない。

健康の回復のために神がその力をもって明らかに働きになる場合もあるが、全部の病人がいやされるわけではない。イエスを信じて眠りにつく者も多い。……

自分の要求や興味を神のみこころを考える気持ちで忘れてしまわなければならない。信仰をためすこうした体験は我々を益し、……信仰は働かすことによって強くなる。主に仕える者のために聖書の中には尊い約束があることを覚え、忍耐を十分に働かせなければならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 205～209)

## 真に英雄的な精神

「しかし主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。それゆえ、わたしは顔を火打石のようにした。わたしは決して辱められないことを知る。」(イザヤ 50:7)

品性の強さは二つの事柄、すなわち意志の力と自制の力からなる。青年の多くは、自制心のない激しい感情を品性の強さであると誤解している。しかし真実は、自分の感情に支配されている者は弱い人間である。人の本当の偉大さや気高さは、その人を制する感情の力によってではなく、その人が制する感情の力によって測られるのである。最も強い人とは虐待を感じながらも、激しい感情を抑え、敵を許す者である。そのような人が真の英雄である。(教会への証 4巻 656)

精力的な人の模範は、広い範囲に影響を及ぼす。こういう人は周りの人に電力を及ぼす。彼は自分の仕事で障害物にあうが、自分の内に押し進む力をもっているので、自分の道がふさがれるのを許す代わりに、すべての障壁を打ち壊す。  
……

どの道にもいばらはある。主の導きに従う者はみな、落胆、十字架、損失にあうことを予期しなければならない。しかし、真に英雄的な精神は、これらに打ち勝つよう助ける。多くの者は困難に思えることを大きく誇張し、自分をかawaiiように思いはじめ、ついに落胆してしまう。このような者は、自らのうちに完全な変化を起こす必要がある。彼らは自分を律して奮闘し、すべての子供じみた感情に打ち勝つ必要がある。彼らは人生をつまらないことに浪費しないようにと決心すべきである。彼らに何かを成し遂げようと決心させ、それを行わせなさい。多くの者が立派な決意はするが、いつも何かをやりかけるが、決してそれをやり遂げない。何につけても彼らの決意は口先ばかりである。……

だれでも人生における目標、目的を持つべきである。思いの腰に帯を締め、思想はつねに、羅針盤が南北を示すように、要点に向けられているように訓練されるべきである。……価値ある目的を常に視野に入れ、一つ一つの思想と行動は、その目的の達成に向けられるべきである。着手したことを成し遂げるために、たえず目的をしっかりと固定していなさい。(ビュー・アソド・ハルド 1886年4月6日)

## わたしたちの勇気を試みる

「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光があらわれる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一 4:12, 13)

キリストに従う者たちは、サタンとサタンの部下たちが、彼らに対して何を企てているかをほとんど知っていない。しかし、天にいます神は、これらの策略を覆して、ご自分の深遠なご計画を完成される。神は、ご自分の民が火のような試練に会うことをお許しになるが、それは、彼らの苦しみを見て喜ばれるためではなくて、この試練を経ることが、彼らの最後の勝利のために必要であるからである。(各時代の斗争闘下巻 274)

わたしたちは神の力強い真理の剣によって世の石切り場から切り出され、主の宮のうちに場所を占める準備をするため、主の仕事場に運び込まれた。この働きの中では金槌とのみがそれぞれの分を果たし、それから磨きがかけられる。この恵みの過程の下で、逆らってはならない。あなたは、神があなたに占めさせようとしておられるその場所にふさわしくなる前に、多くの仕事になされなければならない粗い石であるかもしれない。神が試みという金槌やのみであなたの品性の欠点を切り離されるとしても、あなたは驚く必要はない。神だけがこの働きを完成することがおできになる。そしてこのお方は一度でも不必要に打つことをなさらないと確信しなさい。(サインズ・オブ・タイムズ 1902年11月5日)

神は神の民をきよめ、精錬するために、彼らに苦い杯を飲ませられることを、わたしに示された。……この苦い杯は、忍耐、辛抱強さ、祈りによって甘くすることができ……こうして受ける人々の心に、その意図された効果をあらわし、神に栄光と誉れとが帰せられる……。キリスト者となり、神のものとなり、神に嘉(よみ)されるということは、ささいなことではない。(初代文集 113)

われわれのすべての試練に対して、主の恵みは十分である……。そして試練は、これまでにないほど大きいけれども、もしわれわれが全く神に信頼するならば、われわれはすべての誘惑に打ち勝ち、彼の恵みによって勝利することができるのである。

……われわれは神の武具をすべて身につけて、いつでも暗黒の勢力と戦う用意がなければならない。(同上 112)

## 目を覚ましていれば安全

「だから、ほかの人のように眠っていないで、目を覚まして慎んでいよう。」(テサロニケ第一 5:6)

わたしは、かつて位の高い幸福な天使だったサタンをみせられた。それから現在のサタンをみせられた。彼は今もお王者らしい姿をしている。彼はもと天使だったので墮落した今でも、まだりっぱな顔かたちをしている。しかし彼の顔つきは、心配、苦勞、不幸、悪意、憎しみ、害意、欺瞞、そしてあらゆる悪に満たされていた。わたしは特に、かつてあれほどりっぱだった彼のひたいに目をとめた。そのひたいは目の上からうしろへひっこんでいた。彼は長い間悪いことばかりに専念してきたので、あらゆるよい性質は損なわれて、あらゆる悪の傾向が発達しているのを、わたしは示された。彼は陰險な、悪がしこい何でも見抜かないではおかないような目つきをしていた。彼は大きな体格をしていたが、手や顔の肉はたるんでいた。わたしが彼を見たとき、彼はあごを左の手の上のせて、何か深い考えにふけっているように見えた。その時彼はうす笑いを浮かべたが、わたしはその笑いが、いかにも悪魔的な悪がしこさをあらわしているのに身ぶるいした。この薄笑いは彼が獲物を確保したときに漏らす笑いで、獲物が罠にかかって身動きができなくなると、それは身の毛がよだつような笑いとなるのだった。(初代文集 265)

神の民はずる賢い敵に抵抗する用意ができていなければならない。サタンが恐れるのはこの抵抗である。彼はわたしたち以上に自分の力の限界を知っており、もしわたしたちが彼に立ち向かって抵抗すればどれほど簡単に打ち負かされるかを知っている。神の力によって、最も弱い聖徒も、サタンと悪天使に対し同等以上の力を持つ者となり、試みがきたときにも、彼〔最も弱い聖徒〕はそのまざった力を証明することができるのである。それゆえサタンは音をたてずに歩み、その行動は密かで、彼の砲台はおおい隠されている。……

人はサタンのとりこであって、生来彼の暗示に従い、命令通りに行く傾向がある。人は自分の中には、悪に対して、効果的に抵抗する力を持っていない。ただ生ける信仰によってキリストが彼の内に住まわれ、上からの力によって、人の願いに感化を及ぼし、彼を強めてくださるときのみ、人はこの恐ろしい敵に面と向かって敢然と立ちむかうことができる。他のどんな防御方法も、全く無駄である。(教会への証 5 巻 293, 294)

## 現代の不思議な声

「もし口寄せ、または占い師のもとにおもむき、彼らを慕って姦淫する者があれば、わたしは顔をその人に向け、これを民のうちから断つてであろう。」(レビ記 20:6)

今日の降神術の霊媒者、透視者、占い師たちは、異教の時代の魔術師たちに当たる。エンドルやエペソで語った神秘的な声は、今もなお、その偽りの言葉で人の子らを惑わしている。われわれの目からおおいが取り去られるならば、悪天使たちが人類を欺き滅ぼすために、あらゆる手段を用いているのが見えるであろう。(患難から栄光へ上巻 313)

時には、霊的存在が、彼らの友人の姿をとって人々の前に現われて、自分たちの生活に関係のあった出来事について話したり、彼らが生きていたときに行なったことをしたりする。こうして、人々は、彼らの死んだ友人は天使になっていて、彼らの上をとびかい、彼らと交通するものと思込まされてしまうのである。このようにして、死んだ者の霊であると人々が思い込んだものは、ある種の偶像とみなされる。そして、多くの人々にとって、その言葉は、神の言葉よりもはるかに重大なものに思われるのである。(人類のあけぼの下巻 369)

わたしはこの欺瞞が、急速に広がるのを見た。電光のような速度で走る列車がわたしに示された。天使は、わたしに、注意深く見るようにと命じた。わたしは、列車をみつめた。全世界がそれに乗っているように見えた。それから、天使は、乗客の全員が仰ぎ尊んでいる立派で堂々とした車掌をわたしに示した。わたしは、よくわからなくて、それが一体だれなのかを、一緒にいた天使にたずねた。天使は答えて言った。「それは、サタンである。彼は、光の天使を装っている車掌である。彼は全世界を捕虜にしてしまった。……彼らはみな電光の速度で、滅びに向かっている。」(初代文集 427)

この欺瞞は広がり、われわれは、真正面からそれと戦わねばならなくなる。それに対する準備がなければ、われわれはわなに陥り、打ち負かされてしまうであろう。(同上 426)

神の民は、死者はなにも知らない、また、こうして現れるのは悪鬼の霊である、という聖書の真理によって、これらの霊に対抗する用意がなければならない。(同上)

## 危険な種類の精神治療

「あなたがたはむなしいだましごとの哲学で人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言い伝えに基づくものにすぎない。」(コロサイ 2:8)

人を悪に導く最も有力な一種の精神療法がある。いわゆる科学によってひとりの人間の精神が他人の精神に支配され、そのため弱者の個性は強者の個性にのまれてしまう。こうして一個の人間が他人の意志によって行動する。……

……しかし、ここに科学と呼ばれているものは誤った原理に立脚したもので、キリストの性質や精神とは異なり、生命と救いであるキリストに導くものではない。人間の心を自分にひきつけようとする者は真の力の根源から人間を切り離してしまう者である。(ミンスリー・オブ・ヒリング 219)

科学的な外観の中に懐疑論と不信心が非常にしばしば現れている今日、わたしたちはあらゆる方面で警戒する必要がある。この方法を通して、わたしたちの強大な敵は何千もの人を欺き、自分の意志通りに彼らをとりこにして導いている。彼が科学、すなわち人の思いに関わる科学を悪用する効果は、驚異的である。このようにして彼は、神の働きを損なうために、へびのように気づかれぬように忍び込む。……

ある人の思いが、他の人の思いにすばらしく影響を及ぼすと信じられている一方、サタンはすべてを有利に推し進め、巧みに自分自身をほめめかす用意ができていて、右に左にあの手この手で働く。そしてこれらの科学に献身している者は、それらが支持する立派で良い働きが、自分たちによって行われているために天に向かって自分たちを称賛するが、その一方自分たちがどのような悪の力を大事にしているかについてはほとんど知らない。……親愛なる読者よ、これらの科学の影響力に気をつけなさい。なぜならキリストとサタンの間の闘争はまだ終わっていないからである。……

祈りを怠ると、人は自分の力に頼り、誘惑への戸を開くように導かれる。多くの場合、想像力は、科学的研究によって心を捕らえられ、人は自分自身の力を意識して得意がる。(レクヴェット・メッセージ 2 卷 351, 352)

催眠術のにおいがするもの、すなわちサタンの代理人が働く科学は一切、あなたの身から切り捨てなさい。(同上 350)

## 「偽りの知識」

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの『知識』による反対論と避けなさい。」(テモテ第一 6:20)

物質的および霊的な面における人間の知識は、部分的で、不完全なものである。だから多くの者は、その科学的見解を、聖書に述べられていることと一致させることができないのである。単なる学説や推測を科学的事実として受け入れる者が多い。そして彼らは、神のみ言葉は、いわゆる「偽りの『知識』」によってためざなければならぬと考える(テモテ第一 6:20)。……

人間は、その創造主よりも賢くなろうと努めてきた。人間の哲学は、永遠に啓示されることのない神秘を探り出して説明しようと試みてきた。(各時代の大争闘下巻 265, 266)

多くの者にとって、科学の研究はわざわいとなっている。神は、科学と技術方面の種々の発見によって世界に輝かしい光が注がれるのをお許しになった。しかし、どんなに偉大な頭脳の持ち主であっても、その研究が神のみ言葉によって導かれなければ、科学と啓示の関係を探究するのに困難を感じるのである。(同上 265)

神は、万事の根源であられる。すべての正しい科学は、神のみわざと調和している。真の教育は、すべての神の統治に従うように導く。科学は、新しい驚異を展開する。科学は、天空高く舞い上がり、未知の深海を探る。しかし、その研究から、神の啓示に反するものは、何一つ示すことができない。(人類のあけぼの上巻 35)

神は科学の著者であられる。……正しく理解するなら、科学と書かれた御言は一致し、双方互いに光を注ぐ。それらは共に、神が働かれる賢明にして有益な法則について何かをわたしたちに教え、それによってわたしたちを神へ導く。(両親、教師、生徒への勧告 426)

真の科学の知識は力である。……しかし科学の知識は力であるが、イエスご自身が授けるために来られたその知識はさらにもっと偉大な力である。救いの科学は、地上における準備の学校で学ぶべきもっとも重要な科学である。ソロモンの知恵は望ましい。しかし、キリストの知恵は、はるかにもっと望ましく、また本質的なものである。(同上 19)

## 羊の衣を着た狼

「人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め」(テモテ第二 4:3)

人々は速やかに自分が選んだ旗の下につき、自分たちの指導者の動静を落ち着きなく見張り、待っている。わたしたちの主の出現のために、見張り、待ち、働いている者がいる。その一方では、急速に最初の大背教者の統率下にある隊列に落ち込んでいる者がいる。彼らは人間の中に神を探し求め、サタンは彼らが捜し求める者の化身となっている。大多数の者は真理を拒むことによりすっかり惑わされ、偽ものを受け入れてしまう。人間が神として歓呼して迎えられている。(牧師への証 364, 365)

サタンは欺き、誤り導く機会をねらっている。彼は、人を不従順という広い道に誘い込もうと、あらゆる魅力を駆使している。彼は間違った意見で判断力を混乱させるために、また神が正しい道を示すために設置された道標に偽りを書くことによって地境を取除くために働いている。(SDA パイブル・コメンタリー [E.G. ホワット・コメント] 6 巻 1120)

偽りの教師が起こって、あなたがたを細い道と狭い門から引き離そうとするであろう。彼らを警戒しなさい。羊の衣を着ていても、その内側は強欲なおおかみなのである。……

わたしたちは彼らをそのりっぱな話や高尚な公言によってためすように命じられてはいない。彼らは神のみことばによって判断されるべきである。……「わが子よ、知識の言葉をはなれて人を迷わせる教訓を聞くことをやめよ」(箴言 19:27)。これらの教師たちはどのような教えを伝えているであろうか。それはあなたに神を敬い、おそれるようにさせるであろうか。それはあなたを、神のいましめに忠誠をつくすことによって、神を愛するようにさせるものでしょうか。(祝福の山 180, 181)

こうしたにせ教師たちが教会に起こり、信仰のある兄弟たちの多くから正しいと思われるが、使徒は彼らをたとえて、「水のない井戸、突風に吹きはらわれる霧であって、彼らには暗やみが用意されている」と言った(ペテロ第二 2:17)。(患難から栄光へ下巻 236)

われわれの足は、変ることのない神のみ言葉という岩の上に、しっかり立っているであろうか。われわれは、神の戒めとイエスの信仰をとりでとして、堅く立つ用意ができていだろうか。(各時代の争闘下巻 359)

## あなたは危険の中にいるだろうか

「あなたがたのうち主を恐れ、そのしもべの声に聞き従い、暗い中を歩いて光を得なくても、なお主の名を頼み、おのれの神にたよる者はだれか。」(イザヤ 50:10)

闇の中を歩き、光を持っていない若者がたくさんいる。……

主の手はこの上なく優しい憐れみと愛を込めて差し出されているが、彼らは主を信頼しようとは思わない。彼らは十分自分で考案したり、計画を立てたりできると思いたいのである。……主は彼らに歩ませたいと思う道を明確にしておられる。このお方はご自分の栄光のために用い、また主人であられるお方のためにしかるべき働きをするようにと、彼らにタラントを貸し与えておられる。しかし、サタンは「わたしはキリストの命令を無効にする。わたしは活動的な頭脳や忙しい手のために別の仕事を見つけ、それによって彼らをわたしに仕えさせよう。わたしは、永遠への関心を青年の前に覆い隠し、世的な関心で彼の心を魅了しよう。彼を最も細い糸のような世的な誘惑で縛りつけよう。その縛りつける力は、ついに鋼鉄の綱のようになり、彼は、わたしの奉仕において縛られることになる」と言う。……

祈りと聖書を調べるにより、青年に自分の動機を厳密に探らせなさい。そして、彼ら自身の意志と願いが神のご要求からそれていないかどうか、調べさせなさい。……

若い男女よ、自分の仕事関係において自問しなさい。「わたしは神が望んでおられる場所にいるだろうか。……わたしは自分の義務を果たしているだろうか」と。神の祝福は、神のご計画通りの所にいる者に与えられる。主は、あなたに光を与え、しかるべき働きをなすよう要求しておられないだろうか。もしそうであるなら、不従順であることは安全ではない。あなたの側で真剣に考えなくてはならない。自問しなさい。わたしはわたしの主人なるイエス・キリストに仕えているであろうか。あるいは自分を喜ばせ、神をお喜ばせすることも、神のみ名に誉れを帰することも失敗しているのではないだろうか。

あなたは一刻も猶予せずに、物事のこの順序を変えたいと思うだろうか。あなたは神に仕えることを選びたいのであろうか。そうであるならイエスは信じるようにとあなたを招いておられる。……無限の力ある手をつかみなさい。信仰は訓練によって成長する。み約束を食しなさい。神の御言の単純な約束に頼って満足していなさい。これ以上不信仰のままではいけない。なぜなら、あなたは自分の魂を失う危険の中にいるのだから。(ユース・インストラクター 1893年5月23日)

## 神の力強さをつかむ

「わたしの保護に頼って(わが力をつかみ)、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ(そうすれば和らぎを得る)。」(イザヤ 27:5)

黙示録の中で、彼〔サタン〕は、「われらの兄弟を訴える者、夜昼われらの神のみまえで彼らを訴える者」と宣言されている(黙示録 12:10)。悪の力から救われ、その名が小羊の命の書に記されている一人びとりの魂をめぐって、争闘が繰り返されている。悪しき者の断固とした抵抗を引き起こすことなくして、サタンの家族から神の家族へ受け入れられる者は一人もいない。……彼は、無神論へ導き、神への信頼を失わせ、その愛から離れさせる。彼は神の律法を破るように彼らを誘惑し、それから彼らを自分の捕虜であると主張して、自分から彼らを取り戻すキリストの権利に異議を唱える。彼は、神に許しと恵みを真剣に求める者はそれを得ることを知っている。そのため、彼らを落胆させるために彼らの前にその罪を示す。……最も巧妙で最も残酷な数えきれないほどの策略によって、彼は彼らの有罪判決を確実にしようと努力する。

人はこれらの告発に自分で立ち向かうことはできない。彼は罪のしみのついた衣を着て、自分の罪を告白しつつ、神のみ前に立つ。しかし、わたしたちの仲保者であられるイエスは、悔い改めと信仰によって自分たちの魂の守りをご自分にゆだねたすべての者のために、力ある嘆願をして下さる。このお方は、カルバリーの一の力強い論拠によって、彼らの訴訟を弁護し、彼らの告発者を打ち負かして下さる。このお方の神の律法への完全な従順、しかも十字架の死に至るまでの従順が、天と地における一切の力をこのお方に与えたので、主は罪を犯した人間のために御父に憐れみと和解を主張してください。……

悔い改めと信仰によってキリストの保護を求めている魂を一人として、このお方は敵の力の下に陥ることを許されない。そのみ言葉ばわたしの保護に頼ってわが力をつかみ、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ(そうすれば和らぎを得る)」と誓っている。その約束は……すべての者になされている。「あなたがもし、わたしの務めを守るならば……ここに立っている者どもの中に行ききすることを得させる」(ゼカリヤ 3:7)。神の御使たちは、この世においてさえ、彼らの両側に歩む。そして、彼らはずいぶん神のみ座のまわりにいる天使の中に立つのである。(教会への証 5 巻 470, 471)

## 見える敵、見えない敵

「多くの者は自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者はさとりでしょう。」(ダニエル 12:10)

教会は見える敵、また見えない敵と戦わなければならない。人の姿をとったサタンの代理人が地上にいる。人々は万軍の主に対抗するために同盟している。この同盟はキリストが恵みの御座の前でのとりなしの場所を離れ、報復の衣を身にまとわれるまで続く。悪魔の代理人たちはどの町にもいて、神の律法に反対する人々を忙しくまとめている。自称聖徒および公然たる不信者は、これらの人々と同じ立場を取る。(教会への証 8 巻 42)

神は、この終わりの時代に何が起こるかを明らかにしておられる。それは、ご自分の民が反対と怒りの大嵐に対して耐える準備をすることができるためである。自分たちの前にある出来事について警告を受けている者は、悩みの日には主がご自分の忠実な民をかくまってくださいと自らを慰めて、来るべき嵐を安穏とまかまえているべきではない。……

今(今日同様、宗教的自由が脅かされていた 1885 年)は、さほど重要でない事柄に思いが奪われるのを許す時ではない。……日曜休業令の動きが、今、闇の中でその道をつけつつある。指導者たちは真の問題点を隠しており、その動きに参加している多くの者は、自分自身、底流がどちらに向かっているのかわかっていない。その公言は、穏やかで見たところクリスチャンらしいが、それを語る時が来る時には、龍の精神を表わすのである。この切迫した危機を避けるために、力を尽くしてすべてを行うことが、わたしたちの義務である。(同上 5 巻 452)

神の民が七日目を清く守るゆえに迫害の手を感じる時が近づいている。……時と律法を変えようとし、神の民を常に圧迫している不法の者は、週の初めの日の遵守を強要する法律を制定させる。しかし、神の民は、このお方のために堅く立つのである。そして主は、彼らのために働かれ、ご自分こそ神々の神であられることをはっきりと示されるのである。(同上 9 巻 229, 230)

## 真のリバイバルと偽のリバイバル

「あなたがたはその実によって彼らを見わけるであろう。茂みからぶどうを、あざみからいちじくを集める者があるか。そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。」(マタイ 7:16, 17)

地上に神の最後のさばきが下るに先だって、主の民の間に、使徒時代以来かつて見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起こる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽ものを提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現れる。……

人々が聖書の証言をおろそかにし、克己と世俗の放棄とを要求する明快で人の心を試す真理から顔をそむけるならば、神の祝福を受けることができないのは確かである。……

神の律法の性質と重要性が、ほとんど見失われている。神の律法の性格、永続性、義務についての誤った観念が、改心と清めについての誤りをひき起こし、その結果教会内の敬虔さの標準を低下させるに至っている。ここに、今日のリバイバルにおいて神の霊と力が欠けている理由を見いだすのである。……

神の律法が、その正当な位置に回復されてはじめて、神の民と称する人々の間に、初代の信仰と敬虔さのリバイバルが起こり得るのである。「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ』」(エレミヤ 6:16)。(各時代の争闘下巻 190～192, 209)

## 涙と闘争

「すなわち、謙遜の限りをつくし、涙を流し、ユダヤ人の陰謀によってわたしの身におよんだ数々の試練の中であって、主に仕えてきた。」(使徒行伝 20:19)

われわれの大いなる敵サタンは、アダムの時代から今日に至るまで、圧迫と破壊のために力をふるってきた。そして今、彼は、教会に対する最後の戦闘の準備をしている。(各時代の大争闘下巻 250)

彼は自分の正体と目的を巧みに隠すために、嘲笑、あるいは軽蔑ぐらいはよいが、それ以上の激しい感情を人々に抱かせないようにと、自分を描写させている。彼は自分が、こっけいな、あるいは胸の悪くなるようなもの、不恰好な半獣人として描かれることを好む。(同上 258)

もしサタンが初めの段階でとても悪賢かったのであれば、何千年もの経験を積んだ今はどれほど悪賢いことであろうか。けれども、神と聖天使、そして主のすべてのみ旨のうちにとどまる者はみな、サタンよりも賢いのである。(ビュ・アード・ハラド 1910年8月4日)

神のみ事業に活発に従事し、悪魔の欺瞞をあばき、人々の前にキリストを紹介しようとする者はみな、パウロと同じあかしー謙遜の限りを尽くし、多くの涙と数々の試練の中であって、主に仕えてきたというあかしーをすることができるのである。……

誘惑者サタンは、人の意志を支配したり、強制して罪を犯させたりすることはできない。彼は、われわれを悩ますことはできるが、汚すことはできない。苦悩を与えることはできても、汚辱することはできないのである。(各時代の大争闘下巻 250)

サタンは、わたしたちの思いを読むことはできないが、行為を見、言葉を聞くことができる。そして人類家族についての長年の知識から、サタンは、わたしたちの品性の弱点につけこんで、誘惑をしむけることができる。サタンがわたしたちに勝利するにはどうしたらよいのかその秘訣をわたしたちは、サタンに教えてしまうことがしばしばある。自分の言葉と行いを抑制することができるようになりたいものである。(青年への使命 328)

サタンは、最も激烈で狡猾な誘惑をもってキリストを攻撃したが、そのたびに撃退された。それらの戦いは、われわれのための戦いであった。そしてそれらの勝利は、われわれにも勝利を得させるのである。キリストは、求めるすべての者に力をお与えになる。(各時代の大争闘下巻 250)

## 身体に対するサタンの攻撃

「主は言われた『あなたはどこから来たのか』。サタンは主に答えて言った『地を行きめぐり、あちらこちら歩いてきました』。」(ヨブ 1:7)

サタンは「初めから、人殺しであつた」(ヨハネ 8:44)。(人類のあけぼの上巻 397)

彼の誘惑は多くの人々を破滅に導く。不節制が理性を王座から追い出し、肉欲の放縦、争い、流血が続く。サタンは戦争を喜ぶ。なぜなら戦争は、魂の最悪の激情をかきたて、悪と流血に染まった犠牲者たちを永遠に葬り去ってしまうからである。国々が互いに戦争を起こすように煽動するのがサタンの目的である。なぜなら、そうすることによって人々の心を、神の日に立つ備えの働きからそらすことができるからである。

サタンはまた、備えのできていない魂を自分の収穫としてとり入れるために、自然力を通して働く。彼は自然の実験室の秘密を研究してきたので、神が許される範囲内で自然を支配するため全力を用いる。彼がヨブを試みることを許されたとき、どんなに速やかに、家畜の群れやしもべたちや家や子供たちが取り去られ、またたく間に事件があいついで起こったことだろう。被造物を保護し、破壊者の力から守られるのは神である。……

海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雹(ひょう)、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、きぎんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべき病毒で汚染させ、幾千人もの人が悪疫で死ぬ。これらのできごとがますます頻繁になり、悲惨なものになる。(各時代の争闘 下巻 351, 352)

もしわれわれが、サタン以上の贖い主の力のうちに、かくれがと救いを得ていないならば、サタンとその軍勢の力と悪意とに恐怖を抱くのは当然であろう。……キリストに従う者は、常に彼の保護のもとにあつて安全である。力強い天使が天から送られて彼らを守る。悪人たちは、神が神の民の回りに配置された警護を破ることができないのである。(同上 258, 259)

## さばき(決心)の時に

「群衆また群衆は、さばき(決心)の谷におる。主の目がさばき(決心)の谷に近いからである。」(ヨエル 3:14)

黙示録 13 章の預言には、小羊のような角をもつ獣によって象徴された権力が、「地と地に住む人々に」法王権—そこでは「ひょうに似て」いる獣によって象徴されている—を礼拝させるということがはっきり述べられている。二つの角を持つその獣は、また「獣の像を造ることを、地に住む人々に」語る。さらにそれは、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、自由人にも、奴隷にも」すべての人々に獣の印を受けるように命じる。……

米国が小羊のような角をもつ獣によって象徴された権力である……ローマ教会が自分の至上権を特に承認するものであると主張する日曜日遵守を米国が強制する時にこの預言が成就する……。しかし、法王制に忠順の意を表すのは米国だけではない。かつてローマ教会の支配を承認した国々におけるローマ教会の影響力は、なお破壊されずに強く残っている。そして預言にはその権力の回復が予告されている。「その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで全地の人々は驚きおそれて、その獣に従」った(黙示録 13:3)。

死ぬほどの傷を受けたとは、1798 年の法王権の失墜を指している。この後、「その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従」ったと預言者は言う。パウロは「不法の者」が再臨の時まで存続するというをはっきり述べている。……旧大陸においても新大陸においても、ローマ教会の権威だけに基づいている日曜日制度をあがめることによって、人々は法王制に忠順の意を表すのである。……

神の御言はこの差し迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならばプロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が何であったことを知ったときには、もはや手遅れになってその罟を逃れることはできないであろう。(各時代の斗争闘下巻 337, 338, 341)

われわれは今、神のことについて深い、生きた経験を求めなければならない。一刻も無駄にはできない。(同上 369)

## 厳しい迫害の日々

「いったい、キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。」(テモテ第二 3:12)

それ〔第三天使のメッセージ〕が非常な力で伝えられる時が来るならば、主は謙遜な器を通して働かれ、主の奉仕に献身した人々の心を導かれる。働き人は、学歴ではなくて、聖霊を注がれることによって資格を与えられる。信仰と祈りの人は、聖なる熱意に燃えて出て行き、神から与えられる言葉を宣言せざるをえなくなる。バビロンの罪は暴露される。教会の法令を政権によって強制することの恐るべき結果、心霊術の侵入、法王権のひそかではあるが急速な発展などが、みな暴露される。これらの厳粛な警告によって、人々は動かされる。……

メッセージに伴う力は、それに反抗する人々を怒らせるだけである。……教会は、政権の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにつれて、戒めを守る人々に対して法令が発布される。……

パウロの言葉は、文字通り成就する。「キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(テモテ第二 3:12)。真理の擁護者たちが、日曜安息日を尊ぶことを拒むとき、投獄される者もあれば、追放される者もあり、また奴隷として扱われる者もいる。人間的に考えて、今そうしたことはありえないように思われる。しかし、神の霊の抑制が人々から除かれ、彼らが……サタンの支配下に陥るとき、異様な事態が展開するのである。……

暗黒の軍勢の反対を受けることなしに、神に仕えることができる者はいない。  
(各時代の争闘下巻 376～380)

過去において、キリストのゆえに迫害に苦しんだ者の力は何にあつたのだろうか。それは、神との結合、聖霊との結合、キリストとの結合にあつた。神の民が最後まで耐え忍ぶことができるのは救い主とのこの交わりによってである。(ビュー・アンド・ハールド 1911年2月9日)

## 従順によってのみ安全

「主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈りにかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう。」(ペテロ第一 3:12)

祈りを怠っては、一日、一時間たりとも安全ではない。特にわれわれは神のみ言葉を理解する知恵を祈り求めなければならない。聖書の中に、サタンの策略が示されている。またそれに対抗する手段も教えられている。サタンは巧みに聖書を引用し、彼自身の解釈をほどこして、われわれをつまずかせようとする。われわれは、謙遜な態度で聖書を学び、どんな場合にも神に依存していることを忘れてはならない。こうして常にサタンの策略に注意する一方、たえず、「わたしたちを試みに会わせないで……下さい」と信仰をもって祈らなければならない。(各時代の斗争闘下巻 276)

バラムが、莫大な報酬の約束に誘われて、イスラエルに不利な魔術を行い、主に犠牲をささげて神の民にのろいをかけようとしたときに、神の霊は、彼が言おうとしていた災いを言うことを許さなかった。そして、バラムは、次のように言わなければならない。「神のろわれない者を、わたしがどうしてのろえよう。主のろわれない者を、わたしがどうしてのろえよう」(民数記 23:8)。……

この時、イスラエルの人々は、神に忠誠であった。そして、彼らが神の律法に服従しているかぎり、地上や陰府のどんな力も、彼らに打ち勝つことはできなかった。しかし、バラムは、神の民に対して宣言することを許されなかったのろいを、彼らを罪に誘惑することによって、ついに彼らの上にもたらすことができた。彼らが神の戒めを破り、神から離反していったときに、彼らは、破壊者サタンの圧迫を受けるままに放置されたのである。

サタンは、キリストのうちに住んでいるどんなに弱い魂でさえも、暗黒の軍勢よりはるかに強力であることをよく知っている。……へりくだった心で神によりたのみ、神のすべての戒めに服従する者だけが安全なのである。(同上 275, 276)

だれも神のご要求の一つでも踏みにじりながら、神は自分たちを許し、祝福して下さると信じて自分自身を欺いてはならない。知っている罪を故意に犯すことは聖霊の証の声を沈黙させ、魂を神から引き離す。(サインズ・オブ・タイムズ 1882年11月30日)

## もう一度ペンテコステがくる

「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる。」(エゼキエル 34:26)

主は青年をご自分の助け手として任命しておられる。(教会への証 7巻 64)

ユダヤの家庭のダニエルのように、神のみ言葉とみわざを学び、忠実な奉仕について教訓を学んで成長する今日の少年少女たちも、また立法会議や法廷や宮廷に諸王の王なる神の証人として立つであろう。……

正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢が与えられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくおいでになる救い主のメッセージは、いかにすみやかに全世界に述べ伝えられることであろう。(教育 310, 320)

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終ることはない。福音の開始にあたって秋の雨(前の雨)となって成就した預言は、その終局において、春の雨(後の雨)となって再び成就するのである。……

神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からのメッセージを伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行われ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行い、人々の前で天から火を降らすことさえする。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならなくなる。

メッセージは、議論よりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。……光は至るところにいきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。(各時代の大争闘下巻 380～383)

神はご自分の民が世のためになすべき働きを持っておられる。そしてもし彼らが、互いに、また天と調和して働くなら、神はペンテコステの日にご自分の最初の弟子たちに対してなさったように、彼らのためにご自分の力を表わしてくださるのである。(ビュー・アンド・ハルド 1910年1月13日)

## 神の御霊の前の雨

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び樂しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨（前の雨）を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨（前の雨）と春の雨（後の雨）とを降らせられる。」（ヨエル 2:23）

種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喩を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに靈的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、または先の雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。……地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、靈的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。（患難から栄光へ上巻 51）

地の収穫を实らせる後の雨は、人の子の来臨に教会を準備させる靈的恵みを表している。しかし前の雨が降らなければ命というものはない。緑の葉は出てこない。前の雨がその働きをなさない限り、後の雨はどの種も完全へと導くことはできない。……

クリスチャン経験の中でクリスチャンの徳の絶えざる成長、絶えざる前進がなければならぬ。……

一人ひとりがここに、自分自身の必要を自覚しなければならぬ。心からあらゆる汚れを空にし、聖霊に住んでいただけるようきれいにされなければならぬ。罪を告白し、捨てることによって、また、神に対する熱心な祈りと自らを捧げることによって、初期の弟子たちはペンテコステの日に聖霊の降下を受ける準備をした。同じ働きが、ただし、もっと大規模に、今なされなければならぬ。……

前の雨であらわされた恵みを無視してはならない。自分の持っている光に従って生きる者だけが、さらに大きな光を受けるのである。わたしたちが、日々前進し、活動的なクリスチャンの徳の実例を示さないなら、後の雨における聖霊の降下に気づかないであろう。自分の周りのすべての人の心に聖霊が降下しても、わたしたちはそれを認識することも、受けることもないのである。（牧師への証 506, 507）

## 後の雨の降下

「あなたがたは春の雨（後の雨）の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。」（ゼカリヤ 10:1）

東方の国では、秋の雨（前の雨）は種蒔きの時期に降る。この雨は種を発芽させるために必要である。土地を肥沃にする雨の作用により、柔らかい草の芽が出る。季節の終り近くに降る春の雨（後の雨）は穀物を実らせ、刈り入れの用意をさせる。主は聖霊の働きを表現するために、このような自然のいとなみを用いとおられる。……

わたしたちが前の雨の祝福を大切にする一方で、逆に稲穂をふくらませ、穀物を実らせる後の雨がなければ、収穫は刈り入れの準備ができず、種まきの労はむなしいものとなるという事実を見失ってはならない。天来の恵みは初めに必要であり、前進するあいだ一步ごとに必要であり、天来の恵みだけがこの働きを完成することができるのである。……

通常の季節のいとなみの中で雨は降るのだと安心して休んでいてはいけない。……恵みの雨がわたしたちにもたらされることを願うなら、心を尽くして主の恩寵を求めなければならない。わたしたちはあらゆる機会を活用して、自分を祝福の水路とすべきである。「ふたりまたは三人がわたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」（マタイ 18:20）とキリストは言っておられる。キャンプ・ミーティングのような教会の集まり、家庭礼拝、また、救霊のための個人的な働きがあるところはどこでも、神が前の雨と後の雨を与えるためにお定めになった機会である。……

わたしたちが出席する集まりでは、いつもその時に、神がわたしたちの魂を暖め、うるおいを与えてくださるようにならねばならない。わたしたちの祈りが天にのぼっていくべきである。わたしたちが神に聖霊を求めるとき、それはわたしたちの内に柔和、思いの謙遜さ、後の雨を完成してくださるために神に依存しているという自覚をもたらす。もし、わたしたちが信仰のうちに祝福を祈り求めるならば、神が約束されたように、それを受けるのである。（牧師への証 506～509）

自分の隣人に与えるために命のパンを請い求めているすべての者のところに、聖霊はおとずれるのである。（教会への証 6巻 90）

## 第三天使の大いなる叫び

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りてくるのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

もうひとりの力の強い天使が、地上へくだって第三天使と声をあわせ、そのメッセージに力と勢いを与えるように、任務を受けているのが見られた。(初代文集 448)

全世界的で比類のない力を持った働きが予告されている。(各時代の争闘 下巻 381)

この天使には大いなる力と栄光がさずけられた。彼がくだっていくと、地上はその栄光に照らされた。この天使が強い声で、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった」と力をこめて叫んだとき、彼をとりまいていた光は四方を照らした(黙示録 18:2)。第二の天使によって与えられた、バビロンが倒れたというメッセージは、1844 年以来教会に入りこんでいる墮落についての警告がつけ加えられて、くりかえされている。この天使の働きは、最後の大いなる働きにおいて第三天使のメッセージが大いなる叫びとなってもりあがるちょうどその時に始められる。神の民はこうにして、まもなく会わねばならない誘惑の時に立つ準備ができるのである。わたしは、彼らの上に大いなる光がとどまり、彼らが恐れる色なく、第三天使のメッセージの宣布に協力しているのを見た。

大いなる力をもったこの天使をたすけるために、天から天使たちがつかわされた。そして「わたしの民よ。彼女から離れ去(れ) ……」(黙示録 18:4) という声が聞こえた。……忍耐強く待っている聖徒たちの上には神の栄光がとどまり、彼らは、バビロンが倒れたことを宣布し、神の民がバビロンの恐るべき運命からまぬがれるために、その中から出て来るように呼びかけ、恐れるところなく、最後の厳粛な警告を与えた。

待ち望んでいる人々の上にそそがれていた光は、至る所に輝きわたった。諸教会の中で、幾らかでも光を持っている人々や、三重のメッセージを聞いたことがなく、拒まなかった人々は、呼び声に応じて、墮落した教会を離れた。(初代文集 448, 449)

## ふるいの時に動かされない

「このようにわたしたちは震われない国を受けているのだから感謝しようではないか。そして感謝しつつ、おそれかきこみ、神に喜ばれるように仕えていこう。」(ヘブル 12:28)

キリストを受け入れ、自分たちの最初の確信のうちに、「わたしは救われている」と言う者は、自分自身を信頼する危険性がある。彼らは自分自身の弱さとたえず神聖な力を必要としていることを見失っている。彼らはサタンの考案に対する準備ができていない。……わたしたちの唯一の安全は、常に自分に信頼をおかず、キリストにより頼むことにある。(サイズ・オブ・タイムズ 1910年1月18日)

人の最大の危険は、自己欺瞞のうちにあつて、自己満足にふけり、こうして、自分の力の源であられる神から離れることにある。(教会への証 8巻 315)

主はもうまもなく来られる。そして、わたしたちは苦難の光景に入りつつある。(同上 9巻 62)

わたしたちは「終わりの時の危難がもうすぐわたしたちに降りかかってくる」と言う必要はない。その危難はすでに来ている。わたしたちは今、魂そのものに及び、肉欲、食欲、激情という骨髓を切る主の剣を必要としている。

तरんだ考えのままほうっておかれた思いは、変えられる必要がある。……思想は神に集中しなければならない。今は肉の心の生来の傾向に打ち勝つため、熱心に努力すべき時である。(同上 8巻 315)

あらしが迫って来るとき、第三天使のメッセージを信じると公言していながら、真理に従うことによって聖化されてこなかった多くの者が、その信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは、世俗を結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに安易で一般向けの側を選ぶのである。かつては真理を喜んだ才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。(各時代の争闘下巻 378)

わたしたちはふるいの時、すなわちふるわれるべきものがすべてふるわれる時にいる。

真理を知っている者が、その言葉と行為において主の戒めに従わないなら、主は彼らをお許しにならない。(教会への証 6巻 332)

## あなたの神に会う備えをせよ

「それゆえイスラエルよ、わたしはこのようにあなたに行う。わたしはこれを行うゆえ、イスラエルよ、あなたの神に会う備えをせよ。」(アモス 4:12)

悩みの時に、聖所に大祭司がおられないので神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くある……。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。(初代文集 149)

彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。(各時代の大大争闘下巻 140, 141)

わたしは多くの人々が、必要な準備をおろそかにしながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後の雨)とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。

預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると信じた人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。……

すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであること、すべての者が覚えているようにしよう。(初代文集 149, 150)

## 神の異なるわざ

「主はベラジム山で立たれたように立ち上がり、ギベオンの谷で憤られたように憤られて、その行いは類のないものである。またそのわざをなされる。そのわざは異なったものである。」(イザヤ 28:21)

誤ることのない正確さで無限の方はまだ、すべての国民の帳簿をつけておられる。悔い改めを呼びかけることにより、主の恵みが提供されている間、この口座は開かれたままである。しかしこの数字が、神がお定めになったところまで達すると神の憤りの働きが始まる。口座は閉じられる。天の忍耐は止む。人類のためにもうこれ以上恵みの嘆願はない。

各時代を見ながら、預言者は自分の前にこの時のことが示された。この時代の国民は、これまでにないほどの憐れみを受けてきた。……しかし、増し加わる自尊心や、物欲、また偶像崇拜、神の侮辱、また卑劣な忘恩が、彼らに対して記されている。彼らは、神との口座を急速に閉じつつある。……

危機が速やかに近づいている。急速にふくらんでいる数字は、神のおとずれの時がすぐにも来ようとしていることを示している。(教会への証 5 巻 208, 209)

あわれみ深いわれらの神にとって、罰するということは異なったわざである。「主なる神は言われる、わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない」(エゼキエル書 33:11)。……しかし主は、「罰すべき者をば決して許さず」、「主は怒ることおそく、力強き者、主は罰すべき者を決してゆるされない者」である(出エジプト記 34:7, ナホム書 1:3)。主はふみにじられたご自分の律法の権威を、義の恐るべきわざによって擁護される。罪人を待ち受けている報復がどんなに厳しいものであるかは、主が刑罰の執行に気が進まないことから判断することができる。主は長く忍ばれ、神の口座にその罪惡の升目が満たされるまではお打ちにならない国民も、ついにはあわれみの混じらない怒りの杯を飲むのである。(各時代の大争闘下巻 403)

神が人を救うためおできになることはすべてなされた後で、なおも人々が与えられた恵みを無視したことを、自らの生活で示すなら、死が彼らの受ける分である。その死は恐ろしい死である。なぜなら、キリストが十字架上で感じられた苦しみを彼らも感じなければならぬからである。そのとき彼らは、自分たちが何を失ったか、すなわち永遠の命と不滅の嗣業を失ったことに気づく。(ビュー・アード・ヘルド 1884 年 8 月 5 日)

## 「悩みの時」

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ち上がります。また国が始まってから、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名を記されたものは皆救われます。」(ダニエル 12:1)

第三天使のメッセージが閉じられると、もはや憐れみは地の罪深い住民のために嘆願しない。神の民はその働きを成し遂げたのである。……最後の試みが世界に臨み、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、「生ける神の印」を受けたのである。その時イエスは天の聖所でとりなしをやめられる。イエスはご自分の手をあげて、大声で「事はすでに成った」と仰せになる。……

神の忍耐は終わった。世は神のあわれみを拒み、その愛をさげすみ、その律法をふみにじってきた。悪人は恩恵期間の限界を越えた。頑強に拒まれてきた神のみ霊は、ついに取り去られた。彼らは神の恵みの守りを失って、悪魔に対する防備が全くない。その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。……そのとき神の民は、ヤコブの悩みの時として預言者によって描かれている悩みと苦しみの場面に投げ入れられる。(各時代の争闘下巻 385, 386, 388)

手が清く、心の潔いものだけが、その苦しい時に立つことができるのである。今こそ、神の律法がわれわれの思いと額にかくされ、心の中に書き記されなければならないときである。……われわれの空いた時は、聖書の研究のために費やさなければならない。この聖書が、最後の日にわれわれを審くのである。……

神の戒めとイエス・キリストのあかしを常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いとわずらいを閉め出していだごう。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、全ての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。(初代文集 129, 130)

## 最後の七つの災い

「貧しい者と乏しい者とは水を求めても、水がなく、その舌がかわいて焼けているとき、主なるわたしは彼らに答える、イスラエルの神なるわたしは彼らを捨てることがない。」(イザヤ 41:17)

キリストが聖所における彼のとりなしをやめられるとき、獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者たちに警告された、混ぜもののない怒りが注がれる。神がイスラエルを救い出そうとされたときに、エジプトにくだった災いは、神の民の最後の救出の直前に世界にくだるもつと恐ろしくもつと広範囲に及ぶ刑罰と類似した性格のものであった。黙示録の記者は、その恐ろしい災いを描写して次のように言っている。「獣の刻印を持つ人々と、その像を拝む人々とのからだに、ひどい悪性のでき物ができた。」「海は死人の血のようになって、その中の生き物がみな死んでしまった。」「川と水の源と(は) ……みな血になった。」(黙示録 16:2～4)このような刑罰は恐ろしいものであるが、神の正義は完全に擁護されるのである。……

これらの災いは、全世界的なものではない。さもないと、地上の住人は全く滅ぼされてしまうであろう。しかし、それでもこれは、人類史上かつてなかった恐ろしい災いである。恩恵期間の終了する前に人々の上へ下った刑罰には、あわれみが混じっていた。キリストのとりなしの血によって、罪人はその罪にふさわしい罰を受けずにすんだのである。しかし、最後の刑罰においては、あわれみを混じえずに怒りが注がれるのである。(各時代の争闘下巻 403, 404)

過去の苦悩と天来の栄光が混じり合うときに地上に生きている神の民の経験は少しも表現できない。彼らは神の御座から流れ出る光の中を歩むであろう。天使によって、天地間は絶えず通信する。(手紙 119, 1904 年)

神の民は苦難を免れるわけではない……が、滅びるままにほうっておかれたりはしない……悪人たちが飢えと疫病のために死んでいくときに、天使は義人を守り、その必要を満たすのである。「正しく歩む者」には、次のような約束が与えられている。「そのパンは与えられ、その水は絶えることがない。」(イザヤ書 33:16)。(各時代の争闘下巻 404, 405)

## 研究 5

## 三重のメッセージ



## 第一天使のメッセージ

## Part IV

## 「神に栄光を帰せよ」

第一天使のメッセージは、わたしたちが神に栄光を帰すべきであると述べています（黙示録 14:7）。わたしたちは、このお方に栄光を帰す、あるいはこのお方の栄光をあらわすというとき、それが天地の創造主への「敬虔な讃美、誉れ、また感謝」を意味していることを理解します。そうであれば、わたしたちはどのようにしてこのお方に栄光を帰することができるでしょうか。聖書は、「こうして、心をついにし、声を合わせて、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神をあがめさせて下さるように」と述べています（ローマ 15:6）。わたしたちはまた時間制限も、心に留めておかなければなりません。「主がまだやみを起されないうちに、またあなたがたの足が薄暗がりの山につまずかなくないうちに、あなたがたの神、主に栄光を帰せよ。さもないと、あなたがたが光を望んでいる間に、主はそれを暗黒に変え、それを暗やみとされるからである」（エレミヤ 13:16）。

モーセは、「その人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさってい」ましたが（民数記 12:3）、神に、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」と願いました（出エジプト記 33:18）。「主は、ご自分の僕の真剣な懇願に答えてくださった。そして、神の栄光を見させてくださいとのモーセの祈りに答えて、モーセはかつて人に許可されたことがなかったほど、神のご臨在の表れを目撃することが許されたのである」（サイプス・オブ・タイムズ 1880年6月3日）。「モーセは、……眺めることを許されたこのお方の栄光のあらわれによって、……キリストを

通して救いの計画を理解した。神のいつくしみ深さ、このお方のみかたち、このお方の卓越さと栄光が彼に表されたのであった。……彼はあわれみと正義が混ぜ合わされて調和し、また比類のない愛が表されているのを見た」(ザインズ・オブ・タイム 1880年6月17日)。

ですから、「神に栄光を帰すとは、わたしたち自身のうちに、このお方のご品性を現すことであり、こうしてこのお方を知らせることである。そしてわたしたちがどのような方法であれ、御父あるいは御子を知らせるとき、わたしたちは神に栄光を帰すのである」(パイブル・コメント [E. G. 初版コメント] 7巻 979)。

「人びとの心に、みことばの原則を植えつけることによって、聖霊は、彼らの心の中に神の性質をめばえさせる。神の栄光の光、すなわち、神の品性が、神に従う者のなかに輝き出なければならない。こうして、彼らは、神に栄えを帰すのです(キリストの実物教訓 414)。

## キリストを通して表された神の栄光

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。」(ヨハネ 1:14)。「神の栄光とはこのお方のご品性である。……このご品性は、キリストのご生涯のうちに現された。……絶えずこのお方は神のご品性を眺めておられた。絶えずこのお方はこのご品性を世に表しておられた。キリストはご自分に従う人々が、その生涯のうちにこの同じ品性を現すようにと望んでおられる」(彼を知るために 131)。「地上生涯の終わりに、イエスはご自分の御父に「地上であなただけの栄光をあらわしました」と仰せになりました(ヨハネ 17:4)。

## 「栄光から栄光へ」

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)。

「キリストを眺めることによって、このお方のことを語ることによって、このお方

のご品性の麗しさを眺めることによって、わたしたちは変えられるようになる。栄光から栄光へと変えられるのである。それでは、栄光とは何であろうか。それは品性である。―彼は品性から品性へと変えられるのである。こうしてわたしたちは、イエスを眺めることによって精練する働きが進むのを見るのである」(神のむすこ娘たち 337)。

「キリストが魂を支配なさるときに、そこには、純潔と、罪からの自由がある。福音の計画の栄光と、その満ち満ちた完全さが生活の中に完成されるのである。救い主を受け入れることによって、完全な平和、完全な愛、完全な確証の喜びを味わうことができる。神が確かにみ子を世の救い主として、世界に送られた証拠として、わたしたちの生活のなかに、キリストの品性の美とかぐわしさがあらわれるのである。……

人間の姿の中にキリストご自身の栄光があらわれることは、天と人間との間を非常に近いものにするのであって、キリストの宿られるすべての魂の中に神の宮の栄光が見られるようになる。そして、内住のキリストの栄光に、人びとは捕えられるのである。こうして、神に導かれた多くの魂の賛美と感謝とは、潮のごとくに、偉大な与え主なる神に栄えを帰すのである」(キリストの実物教訓 395, 396)。

## 真理と神の栄光

「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。……御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである」(ヨハネ 16:13, 14)。

「真理と神の栄光とは、切り離すことができない。われわれは、手近に聖書を持っていながら、誤った見解をもって神をあがめることはできない。多くの人々は、生活さえ正しければ、何を信じているかは問題ではないと主張する。しかし生活は信仰によって形造られる。光と真理が手近にありながら、それを聞き、それを見る特権を利用するのを怠るなら、われわれは事実上それを拒絶し、光よりもやみを選んでいくことになる」(キリストの実物教訓 364)。

**わたしたちは神を喜ばせ、神に栄光を帰すか**

「また『心をつくし、知恵をつくし、力をつくして神を愛し、また自分を愛するように隣り人を愛する』ということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」(マルコ 12:33)。

「人は、契約を守られる神に従うことによって、すべてを得るのである。神の特質が人に与えられ、人は憐れみと同情を働かせることができるようになる。神の契約はわたしたちに、このお方の変ることのないご品性を保証している。そうであれば、なぜ、変らない神を信じると主張している人々が、変りやすく、あてにならないのであろうか。なぜ彼らは、神を喜ばせ、栄光を帰す義務の下にいるものとして、心から奉仕しないのであろうか。……神の契約の条件は、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」である。……これが命の条件である。キリストは『そのとおりに行いなさい。そうすれば、いのちが得られる』と仰せになった。」(バイブル・コメント [E. G. 訳] 7巻 932)

「もしこのお方の祝福が自分に伴い、このお方のご臨在が自分の家族のうちに宿るようにと望むのであれば、あなたはこのお方に従い、損得や自分自身の楽しみと関係なく、このお方の御心を行わなくてはならない。あなたは自分自身の願望や、また神を求めもしなければ、神に栄光を帰すこともしない世俗の人々の同意を顧慮してはならない。もしあなたが神と反対に歩むならば、このお方はあなたと反対に歩まれる。もしあなたが主の他に神々を持っているならば、あなたの心は唯一の真の生ける神に仕えることからそらされてしまう。このお方は全心と分かたれていない愛情とを要求しておられる。心をつくして、魂をつくして、思いをつくして、力を尽くすことを、神は要求しておられる。……

神に完全な奉仕をお捧げするためには、あなたはこのお方のご要求に対するはっきりした概念を持っていなければならない。あなたは最も単純な方法で調理された最も単純な食物を用いるべきである。それは、精巧な脳神経が弱められ、しびれて、麻痺させられることがないように、あなたが聖なることを識別できなくなるようなことがないように、あなたが贖罪とキリストの清めの血を計り知れない価値のあるものとして尊重することができなくなるようなことがないためである」(教会への証 2巻 45, 46)。

「すべて神の栄光のためにすべきである」

「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いつさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい」（コロサイ 3:17）。

「それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に見れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がどんなものであるかを、ためすであろう」（コリント第一 3:13）。

「すべての人は、純潔で高尚で公正な行いによって建てられるべきである。彼の働きの結果は均整の取れた建造物であり、神と人から誉れを受ける汚れのない宮である。

わたしたちは自分の取り上げる働きに関連する事柄を注意深く計るべきである。この働きは魂の祝福となるであろうか。神は、単にわたしたちを忙しくさせるためではなく、ご自分の御名の栄光のために、わたしたちに働きを与えてくれたのである。多くの人々は忙しく、木、草、または、わらを集めるのに従事している。しかしこれはみな燃え尽きてしまうものであり、すべての働きが火によって試される大いなる日のために魂を準備させるものは何一つ残さないのである」（パイブル・コメンタリ [E. G. 初作コメン] 6 巻 1087）。

「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」（コリント第一 10:31）。

「ここに、すべての行動、思想、動機の基礎となる原則がある。その人全体を、肉体的にも精神的にも、神の御霊の支配に献身することである。飲食といった自然な行動でさえ、「神の栄光のために」……なされるべきである。

もし食欲の放縦が、その力を打ち破るためには、神聖な神の御子が人のために六週間近くも断食することが要求されたほど、人類に対して強い力があるとなれば、キリストが勝利されたように勝利できるためには、クリスチャンの前にはどんな働きがあることであろう。ゆがめられた食欲にふける誘惑の強さは、荒野におけるキリストの長い断食のいうにいわれぬ苦悩によってのみ、測ることができる。わたしたちのはじめの父祖が、食欲の放縦を通してエデンを失ったのと同様に、わたしたちがエデンを取り戻す唯一の望みは、食欲の断固たる否定を通してである」（信仰によって私は生きる 230）。

「神を愛し、このお方に全方で仕えている、わが親愛なる友よ、わたしはあな

たが物を購入するために金銭を費やすとき、『わたしは神に栄光を帰しているであろうか、それとも、単に人間的な願望を満足させているだけであろうか』と自問するように懇願する。『わたしはこの手に持っている金銭を、自分を喜ばせ、あるいは自分の子供や自分の友人たちにプレゼントをするためにつぎ込むのであろうか。あるいは、わたしはキリストと共に働く共労者となって、神に栄光を帰すために研究しているすべての人の模範となるのであろうか』。決まりは次のように与えられている。『だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである』(福祉伝道 267)。

「もしわたしたちが食べたり飲んだりするときに神を思うならば、言葉という尊いタラントは、もっと頻繁にこのお方の栄光のために用いられることであろう」(説教と講和 1 卷 215)

### あなたのすべての産物の初なりをもって

「あなたの財産と、すべての産物の初なりをもって主をあがめよ」(箴言 3:9)。

「この聖句は、神がわたしたちのあらゆる恩恵の与え主として、それらすべてのものはご自分のものであると要求しておられることを教えている。このお方のご要求がわたしたちの第一に考慮すべきことであり、このご要求を尊重するすべての人には、特別な祝福が伴うのである」(信仰によって私は生きる 160)。

「神のご要求は他のすべての要求の根底となっている。このお方の御手は、ご自分がその満ち満ちているものと恩恵の中から人に委ねてこられたすべてのものの上に置かれており、こう仰せになる。『わたしは宇宙の正当な所有者である。そしてこれらのものはわたしのものである。これらをわたしの働きを前進させるために、わたしの王国を築くために用いなさい。そうすれば、わたしの祝福があなたの上にとどまる』。……あなたが今できるものを捧げなさい。そしてあなたがキリストと協力するとき、あなたの手はさらに多く与えるために開かれる。そして真理の宝が多くの魂のところへ伝えられるようにと、神はあなたの手を再び満たしてくださるのである。神はあなたが他の人々の与えることができるために、あなたに与えてくださる」(私たちの高い召し 199)。

「あなたの職業が何になったとしても、自分の仕事を神に栄光を帰す方法でなすことを、あなたの目的とすべきである。あなたの稼ぐものは何であっても、それ

を天の銀行に投資するための資本とみなさなければならない。魂をキリストに勝ち取り、闇のうちに座している人々に光を送るための資金と時間と能力を捧げることは、あなたの喜びとなるべきである」(神のむすこ娘たち 275)。

「公の神の礼拝を支えるためにもまた備えがなされるべきであった。会衆は、年毎に聖所の奉仕のために定められた金額の献金をするという誓いをした。また同様に、什一を携え、『またわれわれの土地の初なり、および各種の木の実の初なりを、年々主の宮に携えてくることを誓い、また律法にしるしてあるように、われわれの子どもおよび家畜のういご、およびわれわれの牛や羊のういごを、われわれの神の宮に携えて』来ることが誓われたのであった。

宗教的な目的のために献金を捧げたユダヤ人のもの惜しみしない態度を、クリスチャンは模倣するとよい。

もし什一や捧げ物が何千年も前に要求されたとすれば、それらは今、はるかにもっと重要である。その当時神の僕たちの働きは、ほとんどパレスチナの地に限られていた。しかし、使徒たちや彼らの後継者たちは全世界にわたって福音を宣布するようにと任命された。この時代の人々は、ユダヤ人たちよりも大きな光と祝福に恵まれている。であるから、彼らは、神に誉れを帰し、このお方の働きを前進させるより大きな義務の下に置かれているのである。」(サイン・オブ・タイムズ 1884年1月10日)

## へりくだってあなたの神と共に歩むことによって

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」(ミカ 6:8)。

「キリストの恵みが聖霊によって魂に植えつけられるとき、その人は精神のへりくだった者となり、天の事柄について会話をする人々との社交を求めるようになる。そのとき、聖霊はキリストの事柄を取り上げて、それらをわたしたちに示し、そして、受ける人ではなく、与え主に栄光を帰すようになるのである。したがって、もしあなたが心の中にキリストの聖なる平安を持っているなら、あなたの唇は神への讚美と感謝で満たされるようになる。あなたの祈り、あなたが自分の義務を果たすこと、あなたの慈善、あなたの自己否定は、あなたの思いや会話の主題ではなく

なり、あなたは自分がまだ罪人であったときに、ご自分をあなたに捧げてくださったお方を大いなるものとするのである。あなたは『わたしはイエスに献身する。わたしは律法の中でモーセが、そして預言者たちが記したお方を見出した』と言うようになる。あなたがこのお方を讃美するとき、あなたは尊い祝福を得るようになり、そしてあなたという器を通してなされたことへのあらゆる讃美と栄光は、神の許へ帰るようになる」(信仰と行い 87)。

「神はご自分の民が人により頼み、肉を自分の腕としている間は、彼らを通してご自分の御名に栄光を帰すことはおできにならない。彼らの弱々しい現状は、キリストのみが高められるときまで続くのである。……このお方を、カルバリーの人を掲げよ。人間を後ろに退かせ、すべての人が自分たちの永遠の命の望みが集中しているお方を眺めることができるようにせよ。……教会と世に自分たちの贖い主を仰がせなさい。すべての声はヨハネと共に、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』と宣布せよ」(教会への証 5 卷 729)。

「他人がどう思おうと何をしようと、わたしが神に栄光を帰すために何をなすかということ以外、わたしは案じない。わたしの働きは神の御目に耐えるものであろうか。わたしからすべての高ぶる目は取り除かれているであろうか。わたしの心はへりくだったカルバリーの人、イエスと調和しているであろうか。わたしは涙を流し、祈り、そして働き、永遠の光のうちにわたしの動機と感情を試している。そしてもしわたしがついに救われるとしたら、それはわたしの贖い主の比類なき愛を通してである」(上を仰いで 120)。

## わたしたちのよい行いを通して

「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ 5:16)。

「特別な意味において、セブンスデー・アドベンチストは世の中で見張り人また光を担う者としての役割が与えられてきた。彼らに滅びつつある世に対する最後の警告が委ねられてきた。彼らの上に神のみ言葉からのすばらしい光が輝いている。彼らには最も厳粛で重要な働き、すなわち第一、第二、そして第三天使のメッセージを宣布するという働きが与えられてきたのである」(彼を掲げよ 357)。

「あらゆる時代にわたって、神の民は世の光であった。ヨセフはエジプトにおける光であった。彼は偶像礼拝者たちの国家のただ中でエホバを代表した。……ダニエルとその友達、またモルデカイからは、バビロンの王宮の道徳的な闇のただ中で、明るい光線が輝いた。……」

この時代に生きているわたしたちには、アブラハムやヨセフ、モーセ、ダニエル、エズラ、ネヘミヤ、その他のいにしへの立派な人物たちよりも大きな光と特権が与えられている。そしてわたしたちは、それに比例して、わたしたちの光を世に輝かせる、さらに大きな義務の下にいるのである。神はわたしたちをご自分の律法の保管者となさった。わたしたちは、キリストの尊い血によって贖われたのであり、このお方のみ足の跡に従い、世の前でこのお方を代表すべきである。しかしわたしたちは忠実な真理の保管者であろうか。いま存在している霊的な退廃と道徳的な墮落のただ中で、それを正しく表しているであろうか。わたしたちは真理の尊い光を放散するためにできること、またなすべきことを行っているであろうか」（福音宣伝者 433, 434）。

「愛の働きは、信仰のわざから沸き起こる。聖書の宗教とは、不断の働きを意味する。『あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』『恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである』（ピリピ 2:12, 13）。わたしたちはよいわざに熱心であるべきである。よいわざを維持するように気をつけなさい。真の証人はこう仰せになる、『わたしはあなたのわざを知っている。』（バブル・コメント [E. G. ホワイト] 6 巻 1111）。

## 栄光の王国での勝利の歌

「主の御名によってきたる王に、祝福あれ。天には平和、いと高きところには栄光あれ」（ルカ 19:38）。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」（詩篇 50:23）。

「罪人たちよ、わたしたちはあなたがたが救われ、栄光の王国で勝利の歌に加わるようにと熱望する。わたしたちはあなたがたを愛している。もしわたしたち

が愛していなかったなら、あなたに懇願して、キリストの許に来て神の定められた方法で救われてほしいと請い求めるとお思いであろうか。わたしたちは裁きのときに、あなたがたの名が小羊の命の書に登録されており、あなたがたが神の存在なさる限りそこにいて生きながらえ、とこしえにわたって永遠の命の祝福を享受するのを見たいと望んでいる」(ビュー・アンド・ヘルド 1870年4月19日)。

(52 ページの続き)

みなさんやわたしはいつも、自分の祈りが雨を降らせたり、やんだりさせるような信仰を持っているでしょうか？自分の内で、何が神さまのみ旨（むね）であり、どのように正しいことを行うかを教える静かな細い声を聞いたために、エリヤの祈りは部分的に聞かれたのでした。

この静かな細い声についてうたった古い詩（し）があります。それは実際、目ざまし時計のような働きをします。

それはかぎでまくようなものではない、  
多くの目ざまし時計のように  
それはテーブルや本棚の上に見られるものではない、  
そしてその音は遠くにはひびかない  
そしてそれを聞くのはただ一人であって、それを聞くのは  
この目ざまし時計を本当に持っている人である  
それは持ち運ぶことができず、売ることもできない  
それは、あなたに与えることもできない。

それはまた精密（せいみつ）な機械（きかい）の一つであって  
らんぼうな使い方には決して耐えられない  
もしその時が来ると（そしてそれは長く続かないけれど）  
そのうち使われなくなってしまう。  
そしていまわたしが話している  
かぎでまかない目ざまし時計というのは何だろう？  
それはだれかが悪いことをし始めるときに、  
「しないで！」と言うものである  
なぜって、それはあなたの良心だから、わかったでしょう！

親愛なる子供のみなさん、いつも自分の良心の声に耳をかたむけましょう。それはあなたが聖書から学んだことを実行（じっこう）するのを助けてくれます。この小さな「目ざまし時計」は、あなたが神さまとそのみ旨の近くにとどまっているよう、目ざめさせてくれます。そのとき、エリヤが楽しんで祝福のたくさんも、みなさんのものになりますよ！

## 大根ステーキ

〔材料〕

- 1) 水：2-2.5L
- 2) 玉ねぎ：1個
- 3) セロリ：1本
- 4) 塩：大さじ1
- 5) 大根：中1本

〔作り方〕

1. 皮をむき半分に切った玉ねぎ、葉も含めみじん切りにしたセロリを水に入れ、沸騰してから10分ほど加熱する。
2. 大根は皮をむぎ、約3cmの厚さに切る。火が通りやすいように、浅い切れ目を2、3本入れておくとよい。
3. 2. の大根を1. のだし汁に入れ塩を加えて、大根がやわらかくなるまで煮込む。
4. オリーブオイルを入れたフライパンを熱し、3. の大根を入れる。
5. 片面に軽く焦げ目がついたら、裏返す。両面に焦げ目がついたら出来上がり。

※油がとびはねる場合には、キッチンペーパーで3. の大根表面の水気を吸い取ると料理がしやすくなります。

そのままでもおいしいですが、お好みのソースをかけるとよりおいしく召し上がることができます。

また、焦げ目のついた面に、スプーンを使って小さなくぼみを作ると、銀杏などをのせて、きれいな盛り付けができます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。

## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



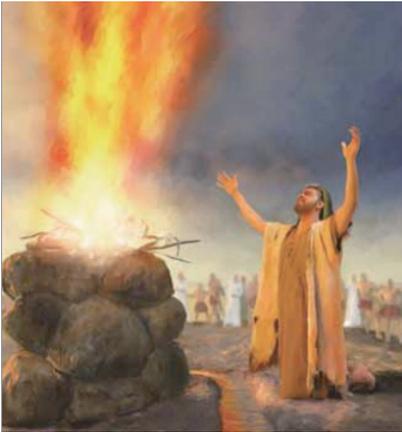
【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## エリヤの聞く耳

多くの子どもたちは、エリヤの物語を聞いたことがあります。おぼえていますね、彼は偉大な預言者（よげんしゃ）で、神さまが彼の祈（いの）りをカルメル山で聞いてくださいました。その運命を決める決定的な日に、エリヤは 850 人ものにせの預言者や祭司たちと対面しなければなりません。彼らは太陽の神が火をもって自分たちに答え、雨をふらせてくださるようと、そのあたりを跳んだり、おどったりしていました。しかし、なにもおこりませんでした！なんの答えもなかったのです！なぜでしょう。なぜなら、太陽の神は本物ではなかったからです。つまり、そのようなものは存在しないのです。太陽には、聞くための耳も、見るための目も、理解するための思いもありません。それは、生ける創造主（そうぞうぬし）のみ手のうちにあるはず多い道具のひとつにすぎません。

エリヤが祈ったこの神さまはちがいます。このお方は、全宇宙（ぜんうちゅう）でただ一人のお方です。このお方は諸天（しよてん）、地、そしてその中にあるすべてのものを創造し、支えておられます。そしてエリヤが祈った



たとき、彼は自分はとても小さく、偉大な全能者（ぜんのうしや）にくらべると、ぜんぜん大したものではないことを知っていました。雨がもたらされるように 6 回も祈ったあとでさえ、なにもおこりませんでした。しかし、エリヤは祈るたびごとに、ますます創造主に近づいていきました。ついに、彼は神さまがすべてで、自分は無であることを感じるところまでできました。それから、彼が 7 回

目に祈ったとき、雲があらわれ、信仰（しんこう）によって彼はものすごい雨が来る音を聞いたのでした。